

# モーダルシフトに着目した品類別の最適な輸送手段 の考察とビジネスモデルの提案

22011203 多田征央

物流分野におけるモーダルシフトは、1980年代に省エネルギー対策として登場した。その後、物流業の労働力不足対策や地球温暖化問題への対応策としての役割が期待されてきたが、現実には想定されたほどの進展は見られていない。この状況を踏まえ、本研究では過去の輸送モード比率を振り返り、モーダルシフトの現状や各輸送機関の二酸化排出量を調査する。さらに、品類ごとに最適な輸送手段を考察し、転換可能な品目に対してモーダルシフトを促進するための手段としてビジネスモデルを提案する。

研究手法としては、輸送機関の選択理由を分析し、各輸送機関の特徴を明らかにする。各品類の輸送機関選択理由から、どの輸送機関が最適かを検討する。モーダルシフトによる環境負荷削減の可能性を探る。鉄道や海運は長距離輸送に適しており、特にCO2削減に有効である。

モーダルシフトのメリットには、CO2排出量の削減や輸送コストの削減、物流効率の向上が含まれる。各輸送機関のコストを比較し、転換に伴うコストを算出する。

最終的に、モーダルシフトが物流業界の課題に対処し、持続可能な社会構築に貢献する可能性を示す。企業が規制を遵守しつつ効率的な物流を実現するための具体的な方策を提示し、物流の将来への道筋を探ることがこの研究の狙いである。